歯科衛生士のための
地域ケア会議必携マニュアル

第2版

監修　公益社団法人 日本歯科衛生士会

編集主幹　秋野憲一　前厚生労働省老健局老人保健課医療・介護連携技術推進官/札幌市保健福祉局保健所母子保健・歯科保健担当部長

編著　武井典子　公益社団法人日本歯科衛生士会会長
久保山裕子　公益社団法人日本歯科衛生士会常務理事
山口朱見　公益社団法人日本歯科衛生士会常務理事
篠原弓月　公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅・施設口腔健康管理委員会委員
原口公子　公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅・施設口腔健康管理委員会委員
松尾由香　公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅・施設口腔健康管理委員会委員
吉澤茂美　公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅・施設口腔健康管理委員会委員

Training Program

Community-based Comprehensive Care System

Case & Advice

Effecting Advice

Effecting Advice (Exercise)

Community Care Conference Manual for Dental Hygienist 2nd.

医歯薬出版株式会社

第1章 地域包括ケアシステムと地域ケア会議

1 地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上となる2025 年には，およそ5.5人に1人が75歳以上高齢者となり，さらに認知症の高齢者の割合や単独世帯・夫婦だけの世帯の割合が増加していくと予想され，介護費用は約21兆円になると推計されています．

世界的にも前例がない急激な社会構造の変化に対応するため，国は「地域包括ケアシステム」の構築を目標として掲げ，住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう，医療，介護，予防，住まい，生活支援サービスが切れ目なく，有機的かつ一体的に提供される体制の整備を目指しています．

高齢者を対象とした意識調査の結果，在宅で医療や介護サービスが受けられるなら，できるだけ長く住み慣れた自宅で暮らしたいという高齢者が多いことが明らかになっています．このような高齢者の方々の願いを実現するため，要介護度の高い高齢者に対しては在宅医療や在宅介護の体制整備を図りつつ，比較的状態の軽い高齢者に対しては，介護予防や日常生活への支援等の自立支援・重度化防止の取り組みの充実を図ることとしています．

歯科医師や歯科衛生士が地域包括ケアシステムにおいて担う役割も重要性が増してきており，在宅歯科医療の提供，介護保険施設における口腔衛生管理，介護予防における口腔機能向上，医療・介護職との多職種連携，そして本マニュアルで詳細を取りあげる地域ケア会議への参画など，さまざまな場面において歯科専門職の関与が期待されるようになっています（**図1**）．

2 平成30年度介護保険制度改正で改めて強く打ち出された「自立支援と重度化防止」

平成29年5月「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」（以下，地域包括ケアシステム強化法）が国会において成立しました．

この地域包括ケアシステム強化法においては，地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組みの柱として，「高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止に向けた保険者（市町村）機能の強化」が掲げられています．

自立支援と重度化防止は，介護保険制度の創設当初から掲げられていた基本的な理念ですが，地域包括ケアシステムの構築を図るうえでいっそうの取り組みの強化が必要であることを改めて打ち出し，保険者である市町村に対し自立支援や介護予防の取り組みのさらなる強化を求めるとともに，

第2章 地域ケア個別会議における効果的な助言

1 専門職として助言を行う時の心構え

「介護予防のための地域ケア個別会議」では，自立支援・介護予防の観点を踏まえ，「要支援者等の生活行為の課題の解決等，状態の改善に導き，自立を促すこと」ひいては「高齢者のQOLの向上」を目指しています．地域ケア個別会議に参加する専門職は，医師，歯科医師，薬剤師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，管理栄養士，歯科衛生士などが考えられます．専門職は対象者のニーズや生活行為の課題などを踏まえ，自立に資する助言をすることが求められています．歯科衛生士としての視点も示しつつ，全体の優先順位を考慮するように気を付けましょう． 多職種が協働し多面的な視点から「実践につながる具体的な助言」を行うことが重要です．「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」するかを明確にした説明を常に意識しましょう．

助言の注意点

- 何を伝えたいのか，論点を明確にする
- 助言や説明はポイントを絞って，短時間で説明する
- 助言者として謙虚であることを意識し，威圧的にならないように配慮する
- 問いかけだけで終了せずに，参加者に有益になるアドバイスをすることを心がける
- 自身の専門に限らず，良いと思われる支援内容については，何が良いかを具体的に伝え，会議に参加している者で共有できるよう配慮する

実践につながるための助言のポイント

- すべての参加者がわかる言葉で説明する
- 具体的かつ実践可能な内容とする
- 優先度を踏まえた議論をする
- 本人の意欲を引き出し，家族や関係者の理解を得る内容にする
- 地域資源に関する確認・課題提起をする

2 地域ケア個別会議の資料

地域ケア個別会議の参加者全員が共通認識を持てるように資料が準備されます．その資料から個別課題の把握や支援すべき内容について読み取る必要があります．一度の会議でいくつもの事例が検討されることが多いた

地域ケア個別会議で使用される資料例
資料1-A：利用者基本情報 表
資料1-B：利用者基本情報 裏
資料2：基本チェックリスト
資料3：課題整理統括表
資料4：介護予防サービス・支援計画書（ケアプラン）

資料 2 基本チェックリスト

基本チェックリストは運動機能・栄養状態・口腔機能・閉じこもり・認知機能・うつ状態などの予防すべき項目が網羅されています．各項目と「口腔とどのように関係しているか」や「確認しておくこと」について読み込む必要があります．

	No.	質問項目	回答（いずれかに○をお付けください）	
❶ 生活状況	1	バスや電車で1人で外出していますか	0. はい	1. いいえ
	2	日用品の買物をしていますか	0. はい	1. いいえ
	3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ
	4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ
	5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ
❷ 運動機能	6	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ
	7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ
	8	15分位続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ
	9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ
	10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ
❸ 栄養状態	11	6カ月間で2～3k g以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
	12	身 長　　cm　体 重　　kg（ＢＭＩ＝　　）（注）		
❹ 口腔機能	13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ
	14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ
	15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ
❺ 閉じこもり	16	週に１回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ
	17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ
❻ 認知機能	18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるといわれますか	1. はい	0. いいえ
	19	自分で電話番号を調べて，電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ
	20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ
❼ うつ状態	21	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ
	22	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ
	23	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ
	24	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ
	25	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ

（注）ＢＭＩ＝体重 (kg) ÷身長 (m) ÷身長 (m) が 18.5 未満の場合に該当とする．

第3章 地域ケア個別会議における効果的な助言

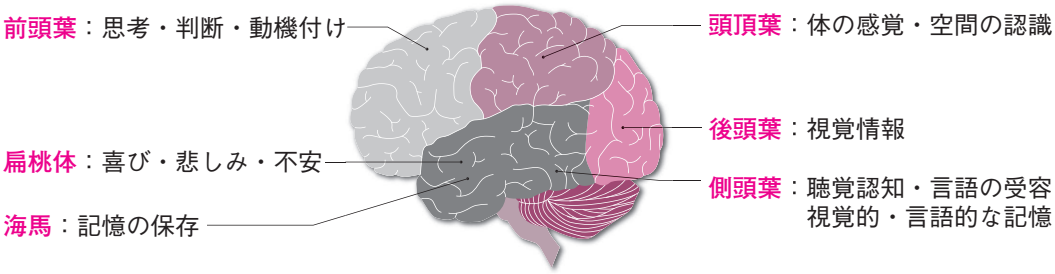
1 ― 脳卒中

1 脳卒中とは

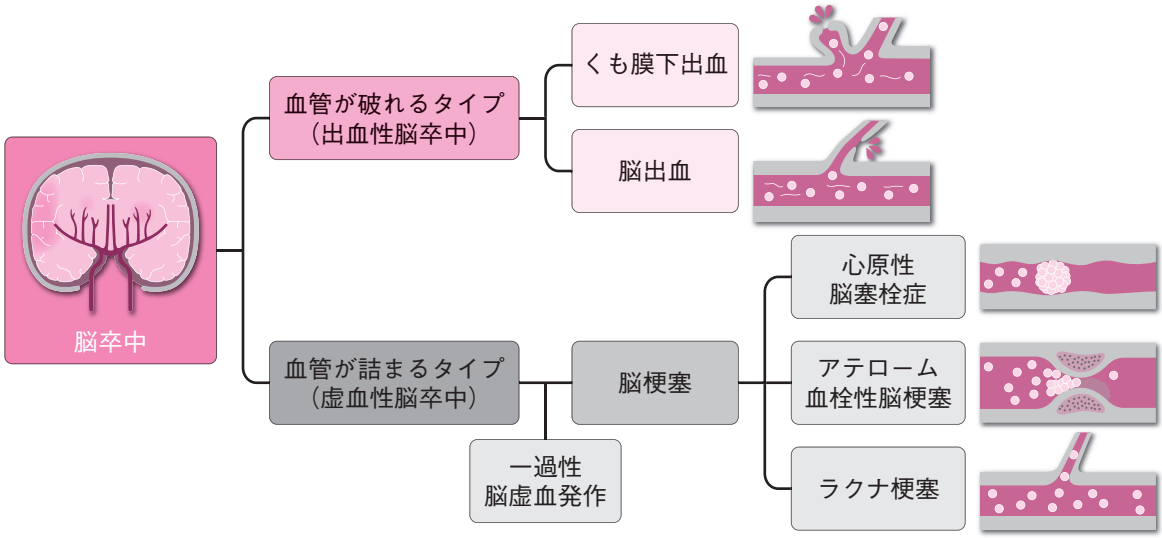
急激に発症する脳血管障害で出血性病変（くも膜下出血，脳出血）と虚血性病変（脳梗塞）があり，障害された部位により症状が異なります．

脳の解剖

脳の大部分を占める大脳は，左右の大脳半球に分かれています．大脳半球は前頭葉，頭頂葉，後頭葉，側頭葉の４つの“葉”に分かれ，それぞれの表面を覆っているのが大脳皮質とよばれる部分です．



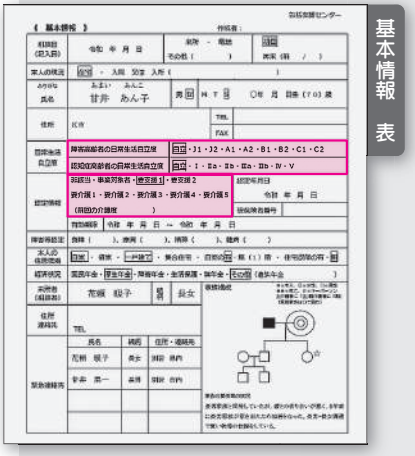
脳卒中は，まずタイプ（種類）の把握から



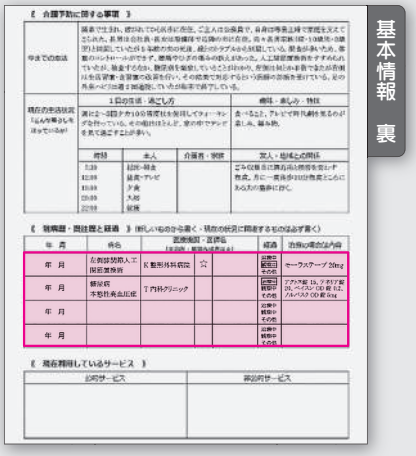
（柴崎浩一監修：歯科医院のための全身疾患医療面接ガイド改訂版．メディア，2019より引用改変）

地域ケア個別会議での助言例

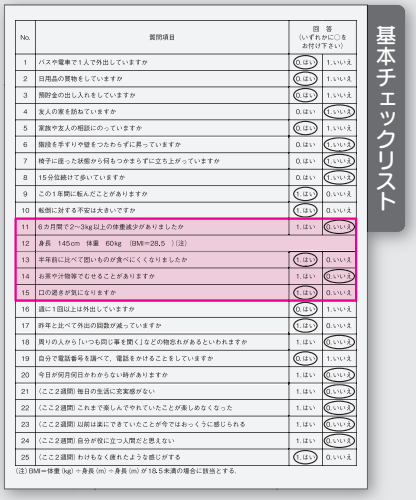
自立度や介護度を確認！



血糖コントロールを確認！
他の疾患や服薬を確認！



体重減少・BMIを確認！
咀嚼・口腔乾燥を確認！



「噛んで食べる」アドバイス

むし歯がある，痛い，歯がグラグラする，義歯が合わないなどの症状があると良く噛むことができず，偏った食事となります．しっかり噛んで食べることができれば，食の多様性と，バランスのとれた食事が可能となり，ひいては血糖コントロールへと繋がることを助言しましょう．

口腔乾燥へのアドバイス

糖尿病のコントロールができていないと口の渇きの自覚症状があるようです．うがいをすることや，口を動かすこと，唾液腺マッサージや口の体操のパンフレットを準備しておきましょう（糖尿病の腎疾患のため水分制限のある方もいるため，水分補給についての助言は栄養士さんに繋ぎましょう）．

糖尿病特有のアドバイス

糖尿病は歯周病を増悪させ，歯周病は糖尿病を増悪させるという深い相関関係があります．糖尿病の方は易感染であるため，正しいセルフケアが必要であることや，歯周治療をすることで，血糖コントロールしやすい環境を作ることが重要であることを助言しましょう．また，糖尿病連携手帳をお持ちの方は歯科受診の際には必ず持参し，歯科のページを記入してもらうよう助言しましょう．